香川県立保健医療大学リポジトリ

地域子育て支援拠点を利用している母親の子育ての実態と育児ストレスの関連

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): childcare stress, community childcare support center, childcare support 作成者: 三浦, 浩美, 植村, 裕子, 松本, 裕子, 石原, 留美, 野口, 純子, 舟越, 和代, 竹内, 美由紀, 松村, 恵子, Uemura, Yuko, Ishihara, Rumi, Noguchi, Junko, Funakoshi, Kazuyo, Takeuchi, Miyuki, Matsumura, Keiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.50850/00000342

地域子育て支援拠点を利用している母親の子育ての実態と育児ストレスの関連

三浦 浩美[1)]*，植村 裕子[1)]，松本 裕子[1)]，石原 留美[2)]，
野口 純子[2)]，舟越 和代[1)]，竹内 美由紀[2)]，松村 惠子[1)]

1）香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科
2）香川県立保健医療大学助産学専攻科

要旨

本調査の目的は，地域子育て支援拠点を利用する母親の子育ての実態を明らかにし，育児ストレスとの関連をみることにより，今後の子育て支援の検討の一助とすることである．A 市内の地域子育て支援拠点を利用している子育て中の母親 469 名を対象に，自記式質問紙調査を実施した．調査内容は，母親の属性，日頃の子育て，地域子育て支援拠点の利用状況，育児ストレスインデックスショートフォーム（PSI-SF）19 項目などだった．分析は記述統計と，母親の属性，日頃の子育ての状況，地域子育て支援拠点事業の利用状況と PSI-SF の各尺度「子どもの側面」，「親の側面」の各点数・総合スコアの関連について，Mann- Whitney U 検定を行った．

有効回答 203 名を分析した結果，対象者の特性として就労している母親が 42.9%，家庭の経済状態にゆとりがないと答えた母親が 18.2%いた．この特性は PSI-SF とも有意な関連が認められた．専業主婦の場合及び家庭の経済状態にゆとりがない群において，PSI- SF スコアの「親の側面」「総合点」が高く，育児ストレスが高い状況が窺えた．経済的ゆとりがないと思っている母親の育児不安やニーズをさらに調査して，子育て支援をしていく必要がある．

Key Words：育児ストレス（childcare stress），地域子育て支援拠点 (community childcare support center)，子育て支援（childcare support）

はじめに

近年，子育てを取り巻く環境は大きく変化しており，子育てをしている親子の環境や特性に応じた子育て支援の在り方を検討していく必要がある．子育てをしている世帯の，ここ 10 年間の全国的な変化をみると，子どものいる世帯における核家族の割合は，5.6%増加して 82.5%が核家族であり，三世帯同居世帯は 5.5%減少し，13.3%となっている[1)]．さらに子どもがいる世帯における共働きの割合は，約 10 年前から 12.2%増加し 2019 年には 72.4%である[1)]．このような，核家族化や共働き家庭の増加は，家庭内の身近な子育て支援者が減少していることを意味している．

子育ての孤立や負担増加に対する地域資源の活用による子育て支援や家庭支援の一つとして，子育て支援センターが各地域に設置され，2007 年に地域子育て支援拠点事業として再編された．事業内容として，子育ての親子の交流の場の提供と交流の促進，子育て等に関する相談・実施，情報提供，講習の実施などが挙げられる．2007 年の開始当初は 4,409 箇所であったが，事業類型を変化させながら，2019 年度には 7,578 箇所と毎年増加し続けており[2)]，子育て世代にとってのニーズの高さが窺える．

地域子育て支援拠点の増加と共に，支援の効果や質の向上を図るために，拠点の利用者を対象とした研究が様々になされてきている[3-8)]．我々も，支援活動を地域子育て支援拠点と連携しながら行い，かつ利用者に対する調査を 2004 年から継続的に行なっている[9-16)]．これらの結果から，就労している母親と非就労の母親の育児ストレスの比較[3, 15)]，乳幼児を育てている母親の悩み[9)]，

*連絡先：〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281番地1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 三浦浩美
E-mail : miura@chs.pref.kagawa.jp
＜受付日 2021年9月24日＞　＜受理日 2021年12月11日＞

育児ストレスの因子構造の特徴[4, 10]育児ストレスと育児に対する自己効力感の関連[11]などを明らかにしている．また拠点の利用者満足度に影響を及ぼす要因[5, 6]や拠点の利用による効果[8]などが明らかになっている．そしてそれらを子育て支援の実践活動に取り入れている．今後も，地域子育て支援拠点の利用者の状況に応じた子育て支援を行っていくために，定期的に調査を行っていくことは重要なことだと考える．

今回は，A 市内の地域子育て支援拠点を利用する母親の子育ての実態を明らかにし，育児ストレスとの関連を見ることを研究の目的とする．そして今後の子育て支援活動に活かしていきたい．

方法

1．調査期間

調査期間は，2019 年 8 月～ 10 月だった．

2．調査協力者

調査協力者は，地方中心都市 A 市の地域子育て支援拠点を利用している母親とした．

3．調査方法

まず，A 市内の子育て支援拠点事業を行っている施設の施設長に調査目的及び方法を記載した協力依頼書と調査票を送付した．次に，協力の同意が得られた施設から，利用者である母親に対し，協力依頼書，質問紙，返信用封筒を配付してもらった．質問紙は自記式，回収は郵送であり，投函をもって調査協力に同意を得たものとした．

4．調査内容

拠点に対する調査内容は，①事業の機能，②運営に携わる人の職種，③運営に携わる人の数，④活動の開催回数，⑤活動の開催時間，⑥活動内容だった．

母親に対する調査内容は，研究者らが独自に抽出した，①対象者の属性（母親の年齢，就労状況，子ども数など），②日頃の子育ての様子（子育てに関する相談や情報収集手段など），③地域子育て支援拠点事業の利用状況（利用期間，利用頻度など），④育児ストレスインデックスショートフォーム（Parenting Stress Index - Short Form, 以下 PSI- SF）19 項目などだった．

5．測定用具

PSI- SF は，Richard R. Abidin が作成し、兼松らが日本語に翻訳した育児ストレスインデックスの短縮版である[17]．PSI- SF は，全 19 項目で「子どもの側面」と「親の側面」の 2 因子構造である．

因子 1「子どもの側面」は「私の子どもは，元気すぎて私が疲れる」「私の子どもは，他の子どもと比べて集中力がない」など 9 項目で構成され，Cronbach’s α は 0.80 である．

因子 2「親の側面」は「私は親であることを楽しんでいる」「私は物事をうまく扱えないと感じることが多い」など 10 項目で構成され，Cronbach’s α は 0.74 である．19 項目全体の Cronbach’s α は 0.82 であり，信頼性・妥当性が確認されているものである．

評定は「まったく違う」1 点から「まったくそのとおり」5 点の 5 段階評定であり，「子どもの側面」の点数，「親の側面」の点数，総合点を算出した．「親の側面」は逆転して計算し，それぞれ点数が高い程育児ストレスが高いことを意味する．

尺度の使用にあたっては，尺度販売会社から質問紙表を配付部数分購入し，研究者らが作成した質問項目と併せて一つの質問紙にするべく質問紙に転記した．質問項目の文言や点数算出方法は変えないことも含めて，尺度作成者に連絡して了承を得た．

5．分析方法

統計解析には，IBM SPSS Statics ver.27　を用い，記述統計を行った．さらに，独立変数を母親の属性，日頃の子育ての状況，地域子育て支援拠点事業の利用状況，従属変数を PSI-SF の子どもの側面，親の側面，総合点の各点数とし，Mann- Whitney U 検定を行った（$p < .05$）．

独立変数は，母親の年齢は平均年齢で 2 群に分け，就労状況はフルタイム，パート，自営業を「仕事あり」とし，「専業主婦」との 2 群にした．子どもの数は一人と二人以上の 2 群，家庭の経済状態は「ゆとりがある」，「ややゆとりがある」を「ゆとりがある」群，「ゆとりがない」，「ややゆとりがない」を「ゆとりがない」群とした．子育ての満足度は「満足している」，「やや満足している」を「満足している」群，「あまり満足していない」，「満足していない」を「満足していない」群とした．施設利用期間は，1 年未満と 1 年以上の 2 群，参加頻度は「毎日」「週に 2 ～ 3 回」を頻回，「週に 1 回」「1 か月に 2 回」「1 か月に 1 回」を時々として 2 群に分けた．

6．倫理的配慮

調査の実施にあたっては，香川県立保健医療大学倫理審査委員会で審査を受け，承認を受けた（承認番号 273）．調査の実施に際しては，事前に施設長に調査説明書をもとに協力依頼を行い，同意を得た．協力施設を利用している母親には，施設より調査説明書及び調査用紙の配付を依頼した．施設に対しても母親に対しても，調査説明書には研究目的と共に安全性の保障，プライバシー・個人情報の保護，研究データの管理，結果の公表，利益と不利益について記載した．

結　果

1．調査協力者数

A 市内地域子育て支援拠点 30 施設のうち，調査協力の得られた 16 施設を利用している母親 469 名に配付し，

回収数227，そのうち有効回答203を今回の分析対象とした．

２．調査協力の得られた地域子育て支援拠点の概要

調査協力の得られた16の地域子育て支援拠点の概要は，15拠点が常設で活動している「一般型」であり，地域の専門職や自治体職員によって運営され，週に５回開催している拠点が13みられた．活動内容については，交流の場の提供，相談・援助，子育て関連情報の提供及び講習等に関しては16の全拠点が行っていた．

３．対象者の属性（表１）

母親の平均年齢は33.9 ± 5.0歳，20歳代39名（19.2%），30歳代142名（70.0%），40歳以上22名（10.8%）だった．就労状況はフルタイム66名（32.5%）で，そのうち92.4%が育休・産休中であった．パートタイム16名（7.9%），自営業５名（2.5%），専業主婦116名（57.1%）だった．家族構成は，95.6%が核家族であり，子どもの人数は一人121名（59.6%），二人以上82名（40.4%）だった．子どもの年齢は０歳69名（22.8%），１～３歳178名（58.8%），３～６歳40名（13.2%）だった．家庭の経済状態は，ゆとりがある・ややゆとりがあると答えた人が74名（36.5%）だった．

表１　調査協力者の属性

N=203

属性		n	%
母親の年齢	20歳代	39	19.2
	30歳代	142	70.0
	40歳代	22	10.8
就労状況	フルタイム	66	32.5
	パート	16	7.9
	自営業	5	2.5
	専業主婦	116	57.1
子どもの数	1人	121	53.3
	2人	66	29.1
	3人	15	6.6
	4人	1	0.4
子どもの年齢	0歳	69	22.8
	1～3歳	178	58.8
	4～6歳	40	13.2
	6～11歳	16	5.3
家族形態	核家族	194	95.6
	母方祖父母と同居	3	1.5
	父方祖父母と同居	5	2.5
	その他	1	0.5
家庭の経済状態	ゆとりがある	16	7.9
	ややゆとりがある	58	28.6
	どちらともいえない	91	44.8
	ややゆとりがない	26	12.8
	ゆとりがない	11	5.4

４．日頃の子育ての状態（表２）

８割近くの人が子育ての悩みがあると答えたが，相談相手もいると答えていた．誰に相談しているかは，無記入も多く正確には把握できなかった．そして悩みはありながらも，自分の子育てに満足している人は８割強だった．

子育ての情報源（複数回答可）は，約８割が誰かに聞いたりネットをみたり，雑誌や本を見たり，様々に工夫をしていた．

表２　日頃の子育ての状況

N=203

		n	%
子育ての悩みの有無	ある	160	78.8
	ない	43	21.2
相談相手の有無	有り	158	77.8
	無し	1	0.5
	無記入	44	21.7
相談相手	夫	6	3.0
	実両親	6	3.0
	義両親	1	0.5
	友人	7	3.4
	専門職	3	1.5
	無記入	180	88.7
子育ての情報収集手段	誰かに聞く	167	82.3
	ネット	153	75.4
	雑誌や本	60	29.6
子育ての満足度	満足している	74	36.5
	やや満足している	100	49.3
	あまり満足していない	23	11.3
	満足していない	1	0.5
	無記入	5	2.5

表３　子育て支援拠点事業利用の状況

		n	%
施設を利用している期間	1か月以上3か月未満	25	12.3
	３か月以上６カ月未満	46	22.7
	６か月以上１年未満	33	16.3
	１年以上	96	47.3
	その他	3	1.5
参加頻度	毎日	18	8.9
	週に２～３回	79	38.9
	週に１回	50	24.6
	１か月に２回	40	19.7
	１か月に１回	12	5.9
	その他	4	2.0
参加施設数	１施設	79	38.9
	２～３施設	103	50.7
	３～４施設	14	6.9
	５施設以上	7	3.4
参加のきっかけ（複数回答）	友人に誘われた	56	27.6
	興味・関心があった	135	66.5
	専門職に勧められた	27	13.3
	なんとなく	21	10.3
	その他	19	9.3
満足度	非常に満足している	134	66.0
	満足している	68	33.5
	あまり満足していない	1	0.5

５．子育て支援拠点の利用状況（表３）

母親が子育て支援拠点を利用している期間は，３か月未満 25 名（12.3％），３～６か月 46 名（22.7％）１年以上 96 名（47.3％）だった．参加頻度は週に２～３日が最も多く，78 名（38.4％），次に多いのは，週に１回利用で 49 名（24.1％）だった．参加のきっかけで最も多かったのは，興味関心があったからで 50％程度，次に友人に勧められたが 14.8％程度だった．２～３施設を利用している母親も，50％程度いた．

６．育児ストレス（表４，５）

PSI- SF の各尺度得点は,「子どもの側面」20.1 ± 5.2 点,「親の側面」21.4 ± 5.7 点，総合点 41.5 ± 9.6 点だった．いずれも 50～60 パーセンタイル値程度の得点であった．

母親の属性，日頃の子育ての状況，地域子育て支援拠点事業の利用状況との関連については，就労状況，家庭の経済状態，子育ての満足度と関連が認められた．

フルタイム，パートタイム等含めて仕事をしている母親よりも，専業主婦の方が「親の側面」と総合点が有意に高かった（$p < .05$）．また，家庭の経済状態をゆとり

表４　子育て支援拠点事業を利用している母親の PSI-SF スコア

N=203

項目番号	質　問　項　目	平均値	標準偏差
	子どもの側面（Chronbach's α = 0.79）	20.1	5.2
3	私の子どもは、元気すぎて私が疲れる	3.5	1.0
4	私の子どもは、他の子どもと比べて集中力がない	2.6	1.0
5	私の子どもは、私が喜ぶことはほとんどしない	1.5	0.7
6	私の子どもは、とても不機嫌で泣きやすいと思う	1.9	0.9
7	私の子どもは、他の子どものように笑わない	1.2	0.5
8	子どもがすることで、私がとても気になることがいくつかある	2.4	1.1
9	私の子どもは、小さなことにも腹を立てやすい	2.2	1.0
10	私の子どもは、他の子どもより手がかかるようだ	2.1	1.0
11	私の子どもは、いつも私に付きまとって離れない	2.6	1.1
	親の側面（Chronbach's α = 0.80）	21.4	5.7
1	私は親であることを楽しんでいる	1.7	0.7
2	子どもの世話について問題が生じたとき、助けやアドバイスを求める人がたくさんいる	1.9	0.8
12	私は物事をうまく扱えないと感じることが多い	2.6	1.0
13	子どもが生まれてから、私はやりたいことがほとんどできないと感じている	2.9	1.0
14	いつも、子どもが何か悪いことをすると、私の過ちだと感じてしまう	2.2	0.9
15	子どもが生まれてから、私のパートナーは期待したほど援助やサポートをしてくれない	2.2	1.1
16	子どもが生まれたことにより、パートナーとの問題が思ったよりも多く生じている	2.3	1.1
17	私は孤独で、友達がいないと感じている	1.9	0.9
18	この6か月間、私はいつもより病気がちで痛みを感じることが多かった	1.7	1.0
19	私は以前のように物事を楽しめない	1.9	0.9
	総得点（Chronbach's α = 0.86）	41.5	9.5

表５　子育て支援拠点事業を利用している母親の属性及び利用状況と PSI-SF スコアの関連

N=203

		子どもの側面			親の側面			総合点		
		平均値	SD		平均値	SD		平均値	SD	
母親の年齢	34歳以下	19.9	5.0	n. s.	21.4	5.6	n. s.	41.3	9.2	n. s.
	35歳以上	20.3	5.5		21.5	5.7		41.8	10.0	
就労状況	仕事あり	19.3	5.1	n. s.	20.4	5.2	*	39.6	8.8	*
	専業主婦	20.7	5.2		22.2	5.9		42.9	9.9	
子どもの数	一人	19.7	4.7	n. s.	21.8	5.8	n. s.	41.5	9.4	n. s.
	二人以上	20.7	5.8		20.9	5.4		41.6	9.9	
経済状態	ゆとりがある	19.2	5.4	n. s.	19.0	4.9	*	38.3	9.1	*
	ゆとりがない	20.9	5.4		23.9	6.3		44.8	10.5	
子育ての満足度	満足している	19.6	5.1	*	20.5	5.1	*	40.1	9.0	*
	満足していない	24.3	4.0		28.5	4.8		52.8	6.3	
施設利用期間	1年以内	19.6	5.4	n. s.	20.9	5.8	n. s.	40.5	10.0	n. s.
	1年以上	20.6	5.0		22.0	5.5		42.6	9.0	
参加頻度	頻回	19.7	4.6	n. s.	21.0	5.6	n. s.	40.7	9.0	n. s.
	時々	20.5	5.6		21.8	5.7		42.3	10.0	

Mann-whitney U検定，＊　$p < .05$

がある・ややゆとりがあると答えた「ゆとりがある群」と，ゆとりがない・ややゆとりがないと答えた「ゆとりがない群」で比較した場合,「ゆとりがない群」の方が「親の側面」と総合点が有意に高かった ($p < .05$)．そして，子育てに満足している群は PSI- SF の各尺度得点全てが有意に低かった ($p < .05$).

考　察

A 市内地域子育て支援拠点を利用する母親は，年齢は30歳代が最も多く, 70％を占めていた. 95％が核家族で，子どもの数は一人が 53.3％，二人が 29.1％であった．就労状況としては，フルタイム・パートタイムなども含めて仕事をしている母親と，仕事をしていない母親がほぼ半数ずつであった．また家庭の経済状態として，ゆとりがある・ややゆとりがある人が 74 名（36.5％），どちらとも言えない人が 91 名（44.8％），ややゆとりがない・ゆとりがない人が 34 名（18.2％）いた.

A 市内の地域子育て支援拠点を利用する母親の属性を，我々が 2012 年に調査した結果[15] と比較して違いが認められたのが，母親の就労状況である．2012 年次は，就労している母親が 25.4％だったが，今回の調査では 42.9％となっており，7 年間の間に 17.5％増加していた．ただ，他の調査結果[1, 18] では就労している母親は 70％前後であることから，就労者が増加していること，専業主婦も多いということ，両方が今回の調査地域の母親の特性として着目する必要があるだろう.

そして，専業主婦の方が，PSI-SF の「親の側面」と総合点が有意に高いという結果がみられていた．PSI ストレスインデックス手引き[17] によると,「親の側面」の高値は,「ストレスの原因や親子システムの潜在的な機能不全が，親機能に関連していることを示している．育児課題に苦しめられ，能力がないと感じている可能性がある.」とされている．そして大橋[19] らは,「親の側面」得点は親の QOL や家族機能と負の相関があることを報告している．QOL の 4 下位領域の「身体的領域」「心理的領域」「社会的領域」「環境」全てにおいて「親の側面」得点と負の相関があるが, 特に外見的受容度, 抑うつ度, 生活の楽しさ，自己満足度などの「心理的領域」の低下が「親の側面」のストレス度を高める[19]．専業主婦は育児に専念することで世の中からの孤立感を高める，と言われているが，渡辺・石井[20] は「子どもを育て，家庭を守るのが女性の責任だ」という伝統的な考えを持つ母親には育児不安との関連は認められなかったと報告し，その要因として考え方と行動が一致しているためと考察している．今回の調査対象者の住む A 市は地方中心都市であり，転勤族が多い地域である．夫の転勤のため，出産・育児のために致し方なく専業主婦でいる母親が多い可能性が考えられ，親の側面の育児ストレスが高い要因の一つと考えられる．地域子育て支援拠点で母親と関わる際には，子育てに関する話をするだけでなく，母親

自身の状態や気持ちについて，話をすることが大切であるといえる．

また，家庭の経済状態の認識については，2012年次には調査をしていないため，比較することができない．先行研究においても，対象者の属性として経済状態を調査している研究は非常に少ないが，全国調査[1]で子どものいる世帯における生活意識の「苦しい・大変苦しい」世帯が60.4％，山本ら[21]の調査でも「ゆとりがない・あまりゆとりがない」と答えた母親が57.3％という結果と比較すると，今回の結果としては，経済的なゆとりのなさを感じている母親は少ないと言えるのかもしれない．

しかし，その経済的なゆとりがない群の育児ストレスが,「親の側面」と総合点が有意に高いという結果となった．山本ら[21]は，育児不安の質問項目を因子分析し，下位尺度毎の得点と経済的ゆとりとの関連を明らかにしている．その結果，経済的ゆとりのない群は，育児期の生活に伴う心身の疲れや閉塞感に関する「育児期生活不満」,自分の育児に対する自信のなさや不安に関する「自信のなさ」の得点が有意に高かった[21]．また垣内[22]の低収入層ほど自らの子育てをうまくできていないと思い，近所付き合いが少なという傾向がある，という先行研究の結果からも，今回の結果の確からしさが窺える．今回の調査結果から，子育て世帯に対する経済的支援が，育児ストレス低減の支援にもなると考えられる．経済的ゆとりのない人は子育ての情報の分かりやすい説明を必要としており，母親の人間関係の狭さと関連していることが明らかになっている[23]．地域子育て支援拠点で経済的支援を行うことは難しいが，拠点においても経済的支援に関する情報が得られやすく，経済的な相談をしてもよい雰囲気づくりをすることは，今後必要な支援なのではないだろうか．

また，今回の調査はコロナ禍以前の調査であった．コロナ禍において，家庭の経済状態が大きく影響を受けた家庭も多いことと推察する．感染者数の状況によって，地域子育て支援拠点の利用制限や一時閉鎖もある中，一層支援の必要性は高まっていることだろう．今後も，経済状態の認識なども含め，母親の置かれている状況を継続的に調査し，必要な支援を検討していく必要があると考える．

結　論

A市内の地域子育て支援拠点を利用している子育て中の母親に，自記式質問紙調査を実施した結果，以下のことが明らかになった．

1．今回の調査対象者である育児をしている母親の特性として，仕事をしている母親が約半数，家庭の経済状態がゆとりがない・ややゆとりがない人が2割弱いたことが挙げられた．

2．専業主婦の人，家庭の経済状態にゆとりを感じられない人が，親の側面の育児ストレスが高値であった．

謝　辞

調査を実施するにあたりご協力くださいました自治体担当者様及び各子育て支援拠点施設の皆様，お母さま方に深く感謝申し上げます．

文　献

1）厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）編，2019（令和元）年　国民生活基礎調査，69-70，2021.

2）厚生労働省HP　地域子育て支援拠点事業実施状況令和元年度実施状況，2021-09-13, https://www.mhiw.go.jp/content/000666541.pdf

3）野澤義隆，山本理恵，神谷哲司，戸田有一．乳幼児を持つ父母の家事・育児時間が母親の育児期ストレスに及ぼす影響－全国調査（保育・子育て3万人調査）の経年比較より－．エデュケア　34：1-8, 2013.

4）小川佳代，中岡泰子，富田喜代子，前田宏治，加藤孝士ほか．A県における子育て支援ニーズに関する調査研究（その2）―育児ストレッサーの因子構造―．四国大学紀要　40：13-19, 2013.

5）浅井拓久也．地域子育て拠点の子育て支援に対する利用者満足度に影響を及ぼす要因．秋草学園短期大学　35：1-13, 2018.

6）寺田和永，津川秀夫．地域子育て支援拠点施設における利用者満足の規定要因．チャイルドサイエンス15：39-43, 2018.

7）今井昭仁，伊藤篤．神戸市の大学等が運営する地域子育て支援事業の利用状況と展望．神戸大学大学院人間発達環境学研究紀要　10（2）：135-140, 2017.

8）川崎千恵．乳幼児を育てる母親が認識する地域活動への参加によりもたらされたものと地域活動の特性．日本公衆衛生看護学会誌　6（1）：19-27, 2017.

9）野口純子，榮玲子，植村裕子，小川佳代，三浦浩美ほか．子育て支援システムの構築に関する研究―子育て支援センターを利用している母親の育児ストレスの因子構造―．香川県立保健医療大学紀要　4：33-40, 2007.

10）舟越和代，大池明枝，三浦浩美，野口純子，小川佳代ほか．地域の子育て支援活動における看護系大学教員の役割－子育て支援センターを利用している乳幼児の母親対象の調査から－．地域保健福祉研究10（1）：48-52, 2007.

11）野口純子，舟越和代，大池明枝，三浦浩美，小川佳代ほか．子育て支援センターを利用している母親の育児ストレス．香川母性衛生学会誌　7（1）：40-45, 2007.

12）植村裕子，野口純子，小川佳代，榮玲子，三浦浩美ほか．地域子育て支援事業に参加した母親の

看護職への期待．香川母性衛生学会誌　8：39-43, 2008.
13）小川佳代，榮玲子，野口純子，三浦浩美，竹内美由紀ほか．地域子育て支援事業の効果に関する研究－母親の親性の発達に影響する要因－．小児保健研究 69（3）：432-437, 2010.
14）松村惠子，植村裕子，三浦浩美，野口純子，小川佳代ほか．母親の育児ストレスに関する研究．香川県立保健医療大学紀要　2：19-28, 2005.
15）野口純子，三浦浩美，舟越和代，植村裕子，竹内美由紀ほか．子育て支援センターを利用している母親の育児ストレスと育児に対する自己効力感の検討．香川県立保健医療大学雑誌　6：29-36, 2015.
16）野口純子，植村裕子，三浦浩美，舟越和代，小川佳代ほか．三歳児を養育する母親の育児ストレッサー―就労母親と非就労母親の比較―．香川母性衛生学会誌　5（1）：23-30, 2005.
17）兼松百合子，“PSI 育児ストレスインデックス　手引”，第 2 版，一般社団法人　雇用問題研究会，東京都，2015.
18）八重樫牧子，小河孝則．母親の子育て不安と母親の就労形態との関連性に関する研究．川崎医療福祉学会誌　12（2）：219-239, 2002.
19）大橋幸美，浅野みどり，門間晶子，古澤亜矢子．1 歳 6 か月の子どもの行動特徴と母親の育児ストレス・QOL・家族機能との関連．家族看護学研究　18（1）：2-12, 2012.
20）渡辺弥生，石井睦子．母親の育児不安に影響を及ぼす要因について．法政大学文学部紀要　51：35-46, 2005.
21）山本理絵，神田直子．家庭の経済的ゆとり感と育児不安・育児困難との関連－幼児の母親への質問紙調査の分析より－．小児保健研究　67（1），63-71, 2008.
22）垣内国光．現代の育児不安・育児困難の階層性に関する考察－川崎市の保育要求地域実態から－．明星大学社会学研究紀要　25：21-31, 2005.
23）厚生労働省．第 5 回 21 世紀出生児縦断調査結果の概況，2021-09-15．http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/syusseiji/05/kekka3.html

Relationship Between the Actual Conditions of Mother's Child-Rearing Who Use Community Childcare Support Centers and Childcare Stress

Hiromi Miura[1)]*, Yuko Uemura[1)], Yuko Matsumoto[1)], Rumi Ishihara[2)], Junko Noguchi[2)], Kazuyo Funakoshi[1)], Miyuki Takeuchi[2)], Keiko Matsumura[1)]

1) Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectual University of Health Sciences
2) Graduate Program in Midwifery, Kagawa Prefectual University of Health Sciences

Abstract

The purpose of this study is to shed light on the actual situations of mothers's child-rearing who use community childcare support centers and examine its correlation with childcare stress, so as to contribute to the study of childcare support in the future. The author conducted a self-administered questionnaire survey targeted at 469 child-rearing mothers who use community childcare support centers in City A. The contents of the survey included the mothers' attributes, daily childcare routine, how they use community childcare support centers, and 19 items of the Parenting Stress Index Short Form (PSI-SF). Descriptive statistics and Mann-Whitney U tests were used to analyze the relationship between mothers' attributes, their daily childcare routines, and their use of community childcare support centers along with their scores on each of the PSI-SF scales, "Child Aspect" and "Parent Aspect," and their overall scores.

The results of the analysis of 203 valid responses showed that 42.9% of the mothers were working and 18.2% of the mothers answered that their family's financial situation was not adequate. This characteristic was observed to be highly correlated with PSI-SF. In the case of full-time housewives and those who had limited financial resources, the "parental aspect" and "total score" of the PSI-SF scores were higher, indicating higher childcare stress. It is necessary to further investigate the childcare concerns and needs of mothers who believe that they do not have the financial means to support their children.

Key Words：childcare stress, community childcare support center, childcare support

*Correspondence to : Hiromi Miura, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectual University of Health Sciences, 281-1, Hara, Mure- cho, Takamatsu, Kagawa 761-0123, Japan
E-mail : miura@chs.pref.kagawa.jp